

## 1. 計画策定の背景

町の環境行政は、平成10年12月に制定された二宮町環境基本条例に基づき、二宮町環境基本計画（平成14年3月策定）、第2次環境基本計画（平成24年3月策定）に沿って、この町の自然環境・生活環境を生かしながら、将来に残したい環境の保全及び創出に向けて、町民・事業者・行政が一体となって推進してきた。

町には吾妻山や葛川をはじめとする豊かな緑や水辺をはじめ、相模湾にも面していることで、多様な自然環境に包まれた住生活を送れることから、これらの自然環境に対して町民は愛着をもつとともに、町への来訪者にも親しまれ、また、こうした環境を求めて移住してくる方も数多く存在する。

生活環境の面に目を向けると、ごみ処理に関しては、1人あたりの年間のごみ排出量は、年々減少傾向にあり、神奈川県との平均値と比較しても低い値で推移していることから、本町はごみの減量化が進んでいる自治体となっている。こうした背景には、直近のリサイクル率が県内5位と高水準であることから、循環型社会に対する町民や事業者の意識が高いことがうかがえる。

さらに、平成24年から平塚市・大磯町との1市2町ごみ処理広域化を推進しており、平塚市環境事業センター（高効率ごみ発電施設）・大磯町リサイクルセンター・二宮町ウッドチップセンター等の安定した稼働によって、循環型社会や脱炭素社会の実現に寄与する町としての顔を持つようになった。

一方、世界に目を向けると、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で示された世界共通の目標であるSDGsが国連で採択されて以降、日本では平成28年12月に「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」が決定され、地方自治体を含む様々な事業体において、SDGsの目標に資する取り組みが推進されるようになってきた。

また、IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書において、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、令和32(2050)年までにCO<sub>2</sub>の実質排出量をゼロにすることが必要」と報告されたことを契機として世界が脱炭素化へ向かう中、日本政府も2020年10月に「2050年までに温室効果ガスの排出を全体として実質ゼロにする」というカーボンニュートラルの実現を目指すことを表明した。

このことに加えて、未来の地球環境を大きく左右する深刻な気候変動に対して、地方自治体による気候非常事態宣言等に基づく取り組みが加速してきている中で、町においても、誰もが気候変動危機に対する意識を共有しながら、その対策を力強く推進する行動を起こさなければならない局面を迎えている。

このような背景の中で、令和5年3月に第2次計画の期間満了を迎えることになるが、顕著となっている少子高齢化や人口減少という課題もある中、町民・事業者・行政がより一体となって環境づくりに向き合い、取り組みを進めていくことで、町民が誇る良質な自然環境に包まれた生活環境を次世代に引き継ぎ、そして持続可能な町としてさらに発展していくことを念頭に、第3次環境基本計画を策定するものである。

## 2. 計画の期間

本計画は、令和5年度から令和14年度までの10年間とする。なお、本計画に基づく実施計画を5年毎に策定するものとし、令和5年度から9年度までを前期実施計画、令和10年3月にその後5年間の後期実施計画を策定するものとする。

## 3. 町民や、まちの未来を担う子どもたちが考える町の環境とこれから

計画策定にあたって実施した町民（無作為抽出1,000名）や町立中学校全生徒への環境に関するアンケートでは、町の環境の現状と今後のあり方等について、以下のような考えを持っていることが明らかになった。

### 【町民アンケートの結果概要】

- 二宮町の環境に対する満足度は高い。
- 自然や景観、公害等の生活環境等に対する満足度は高い。
- 一方で、道路整備や交通の利便性については、不満や改善の意向が多くあることがうかがえ、環境政策とともに、まちづくり政策や交通政策の課題と併せ、町全体で対応すべき課題となっている。

- 今後の取り組みの重要度は、満足度と概ね同様の項目が挙げられている中で、近年、異常気象による自然災害が相次いでいることから、自然災害対策等が懸念されているため重要度が高くなっている。
- 環境情報の入手や、環境保全行動への取り組みは、町民の一部のみの行動に留まっていることがうかがえる。
- さらに、今後の環境保全行動の実践については、関心はあるものの実際の行動が難しいと考えている町民が多い結果となっており、このことから、町民の環境問題への関心を実践に移すための仕組みづくりが課題である。
- ただし、ごみの分別や省エネ行動、地域の清掃活動、緑化活動、エコバッグ持参などの身近な行動については、ある程度、町民生活の中に定着していることがうかがえ、継続的な取り組みの促進や、実践者の拡大が求められる。
- 環境保全の重要性については、町のシンボルでもある吾妻山や海の環境保全について、町民の関心が高い。
- 葛川の保全について関心を持つ町民も多く、更なる改善や魅力向上への取り組みの意向もあることがうかがえる。

### 【中学生アンケート結果概要】

- 町の自然環境・生活環境に対する印象は、概ね良いイメージを持っている。
- 特に、自然環境についての評価が高く、吾妻山、海があることに対する好印象が圧倒的に多かったほか、緑、景色についても好印象を持っている。
- 生活環境では、交通やまちの利便性、きれいな空気といった項目が良いものとしてあげられているほか、「都会過ぎず田舎過ぎない」といった意見も一定数見受けられた。
- ただし、町の環境に好印象をもつ一方で「ごみが落ちている」などといった負のイメージも一定数あった。
- 10年後の町の環境に求めることとしては、自然環境が「自然を残す」「自然を守る（このままであってほしい）」、生活環境が「ごみが落ちていない」「きれいなまち」を望んでいる。
- 町の環境を守るため、創るための施策(行動、活動など)については、身近なごみに関する取り組みを求めているほか、植樹や花植えなどにより緑を守る、緑を増やす、空き家の減少・土地の活用、草刈り、ボランティア活動の充実など、多岐にわたる声もある。また、これらに関する活動への参加意欲がある生徒も多数見受けられる。

## 4. 町の環境課題

以上のことなどから、町民や中学生の意見による町の環境課題は、以下のように整理できる。

- 町の自然環境は豊かで、かつその自然が織りなす良好な景観が存在する。これらの環境を大事にしたいと考えている町民や子どもたちは多い。
- 町の利便性については、大人は不満や改善の意向が高い一方で、子どもたちにとっては、まちの利便性は高いという評価も一定数あり、年齢によりその評価やあり方には違いがある。
- ごみ問題については、世代を問わず関心があり、課題という認識がある。町民はその課題を踏まえて、まちぐるみでのごみの削減等に向けた取り組みを行っている。
- 環境づくりに対する活動への意欲については、大人は参加が困難であるという意見も多い。一方で、子どもたちの環境づくりやボランティア活動への参加意欲は一定数見られる。

以上を総括すると、

- まちの魅力は自然や景観である。関心が高い環境課題はごみ問題であり、これは大人も子どもも共通している。
- まちの利便性については、大人は高めてほしいと考えているが、子どもは自然との調和を考慮しつつ、利便性の向上をそこまで強く求めている。
- 環境活動への参加に対するポテンシャルは、子どもたちの方が高い。

また、本計画策定とは別に行った町民満足度調査の結果から、地球温暖化や気候変動に対する認知は広まりつつあることがわかり、行動転換が必要と思う人は半数を超えている。

## 5. 町の望ましい環境像（案）

緑と水辺、そして海が織りなす多様な自然といつまでも共生し、  
環境づくりの輪が広がる美しいまち にのみや

二宮町が誇るべき資源は、吾妻山や葛川をはじめとする豊かな緑や水辺、そして広大な海など、多様な自然と、これらから形成される美しい景観です。

これらの自然は、世代を問わず大人から子どもたちまで、広く愛されています。

町で生活する人は、この自然の中で暮らしていることに安らぎを感じ、未来に向けて残していきたい誇れる環境資源であると考えています。

一方で、町全体の課題として、少子高齢化や人口減少の問題が挙げられますが、地域組織の強化や経済の活性化に向けた取り組みを充実させていくことなどにより、将来を支える人材を育成し、その課題を徐々に解決していこうとしています。

これを環境面で考えたときに、町の子どもたちが持っている環境づくりへの参加意向の高さを軸にすることで、環境づくりをまちの活性化に繋げることも可能となります。

すなわち、若い世代も取り込んだ環境づくりの輪が広がっていくことで、良好な環境が保全、創出されるだけでなく、町の賑わいや活性化などにも繋がっていくことが期待できます。

町民の多くは、豊かな自然に包まれた美しい生活環境の「二宮町」が未来へと続くことを求めており、それらを目指すことは、「二宮町」が持続可能な町となることを意味します。

また、地球規模の環境問題が深刻な状況を迎えている中で、町の環境だけに着目することなく、世界の一部、一員として様々な問題にもしっかりと対応し、豊かな地球環境づくりに貢献していけるよう、世界の人々と歩調を合わせながら、この危機的な局面を切り拓いていかなければなりません。

幸いにも、この町には豊かな自然環境のみならず、多様な人材等が豊富で、コンパクトという特性もあることなどから、様々なパートナーシップのもと、町ぐるみで取り組んでいくことが可能です。

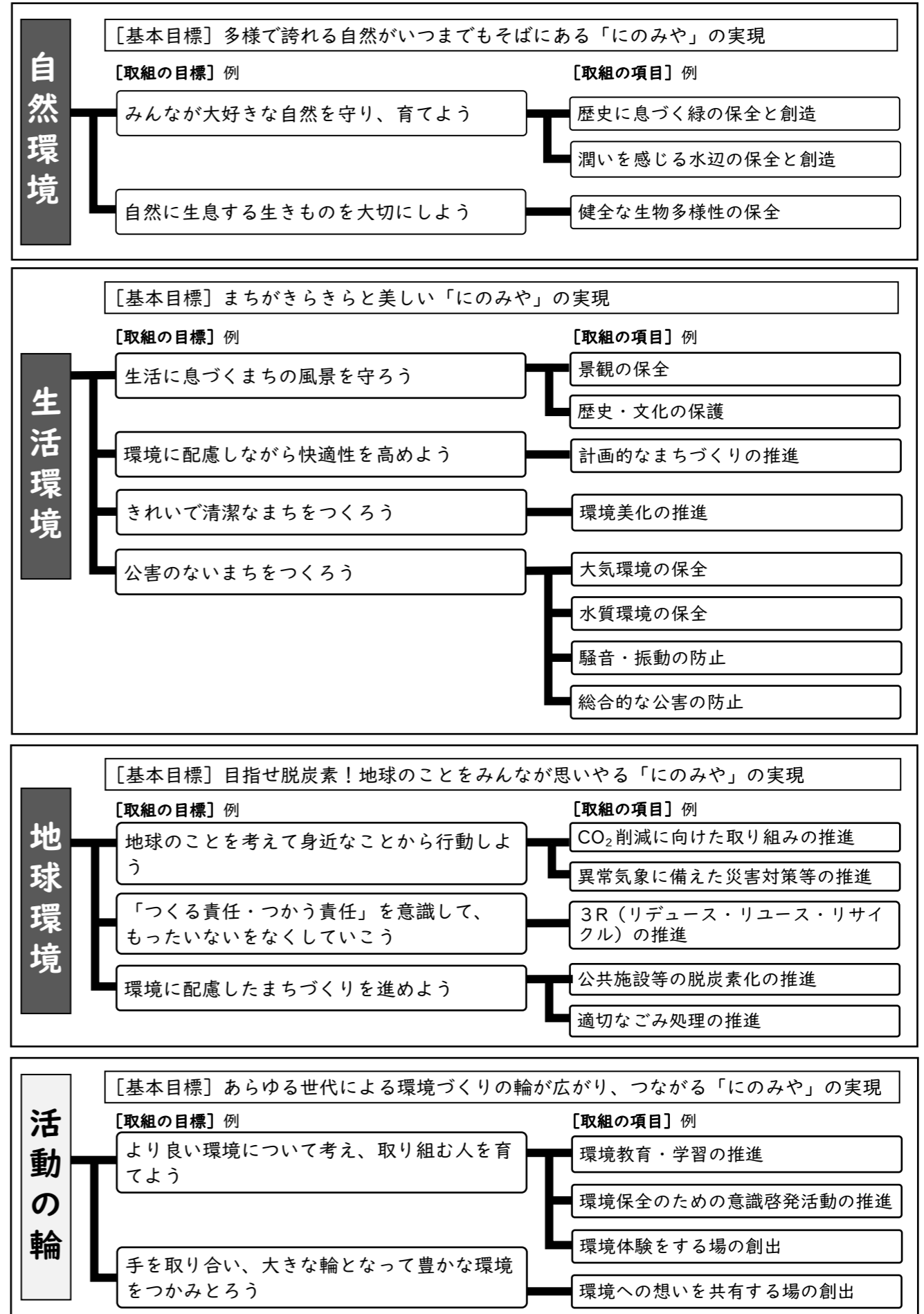
このようなことをふまえ、第3次環境基本計画における長期的ビジョンとなる「町の望ましい環境像」を「緑と水辺、そして海が織りなす多様な自然といつまでも共生し、環境づくりの輪が広がる美しいまち にのみや」とし、町民や地域、事業者、町がより一体になるとともに、あらゆる世代で手掛ける環境づくりを推進していくことで、「町の望ましい環境像」を実現していくものとします。

## 6. 計画の体系

町の望ましい環境像を実現するための計画の体系（取り組みの体系）は、右図のとおりとする。

また、これらの取り組みを町民や地域、事業者、行政が協働で推進していくものとするため、第二次計画の基本目標を継承しながら、「活動の輪」という新たな目標を定めることとする。

【望ましい環境像】  
緑と水辺、そして海が織りなす多様な自然といつまでも共生し、  
環境づくりの輪が広がる美しいまちといつまでものみや



■第3次二宮町環境基本計画の体系のイメージ